出エジプト記の結晶の学び 第 3 週　　神の召しの目的

鳥瞰	神の召しの目的の、消極的な面は、神の選ばれた民をエジプト人の暴虐、奴隷から救い出すことです。積極的な面は、民を導き良き地カナンへともたらし、神の定められた御旨を完成することです。出エジプト記は第 3 章で、三つの地点があること啓示しています。それは荒野（この世から分離した場所）、山（神の定められた御旨の啓示を受ける場所）、良き地（豊富を享受する場所）です。神の召しは、神の予め定めることと、神の定められた御旨と、神の恵みによります。それはキリストの中で、福音を通してです。新約で啓示されている神の召しの目的には八方面あります。	
	真理要点	経験適用
1日	❶神に召された者として、世界が暴虐の地であることをどのようにして、はっきりと見ますか？ ❷この世の人と私たちの、生活における態度にはどのような違いがありますか？	❶わたしたちは神の召された者として、この世は享受の源ではなく、暴虐の地であるという見解を必要とします。この世の中で、サタンは神の選ばれた民を、自分の強奪する手の下にとどめています。同じ原則が今日、働いています。人々は働くとき、さまざまな暴虐の形態の下で苦しむのです。 ❷今日、堕落した世の人たちは、自分の生存以外、何も顧みません。彼らは自分の生存の目的を顧みません。わたしたちの生存のために神によって定められた目的は、キリストを生きること、神を生かし出すこと、神の証しを持つことです。わたしたちの生活とわたしたちの生存は、天的な源からの備えにかかっているのであって、この世からの供給にかかっているのではありません。
2日	❶パウロは、どのようにして、福音は神の力であると言っていますか？ ❷私たちの召しは、どのような目的のためですか？	❶どのようにして神の民がそのような邪悪な力の手から解放され、暗やみの王国から救い出されることができるのでしょうか？これは福音の宣べ伝えを通して行なわれています。福音を宣べ伝えて人々を救いにもたらすことは、たやすい仕事であると考えてはなりません。神がわたしたちを召した目的の一つの面は、わたしたちを用いて、他の人をサタンとこの世の、強奪と暴虐から連れ出すことです。 ❷モーセもパウロもこの目的のために召されました。わたしたちもこの目的のために召されています。わたしたちは神の王国と神の建造のために、人々をこの世からすべてを含むキリストの中へと至るまで、もたらす必要があります。神が願っておられるのは、単に小羊、マナ、生ける水としてのキリストの初歩的な享受のある幕屋ではなく、すべてを含む地としてのキリストの豊富な享受のある宮です。
3日	❶荒野に対する正確な理解とは何ですか？ ❷イスラエルの民は山の上にいる時、神がなにであるかに関する啓示を受けました。これはどのような霊的な意義がありますか？	❶多くのクリスチャン教師たちは、荒野を試みと試練の場所として解釈しています。聖書の他の箇所で荒野にはこの意義がありますが、これは出エジプト記第 3 章 18 節における荒野の意味ではありません。なぜなら、ここで荒野はこの世と対立するからです。それはこの世から分離した場所です。人は救われたらすぐに、この世から出て、エジプトの要素のない荒野へともたらされるべきです。イスラエルの子たちは荒野へと入ったとき、エジプトから自由にされました ❷山の上で、モーセは神が何であるか、神の民はどのような種類の生活をするべきかの啓示を受けました。神は聖で、義で、愛であるので、彼の民は聖、義、愛によって特徴づけられた生活をするべきです。神の民は神の詳細にわたる属性に一致する生活をしなければなりません。そのような啓示は、山頂においてのみ見ることができます。
4日	❶私たちはどのようにして、人たちがキリストの計り知れない豊富のすべてを経験するように助けますか？ ❷神がわたしたちを召した目的がこの世の暴虐から離れさせるためであることを説明して下さい。	❶わたしたちは、他の人たちがキリストの計り知れない豊富をすべて経験するように助ける必要があります。それは、神が今日、地上に彼の王国を設立し、彼の住まいを持つことができるためです。この点がパウロによって、ガラテヤ人への手紙、エペソ人への手紙、ピリピ人への手紙、コロサイ人への手紙で扱われているのです。この四つの書は、キリストを単に小羊としてだけでなく、すべてを含む方、すなわち、すべてを含む地として明らかにします。 ❷神は目的をもってわたしたちを召されました。この目的とは、わたしたちを用いて人々を今日のこの世の暴虐から荒野、すなわち分離の地へともたらすためです。それはまた彼らを山にもたらすためであり、そこで彼らは神のエコノミーについての啓示と幕屋の設計を見て、幕屋が建造されます。さらに、それは彼らを豊富なすべてを含む良き地へともたらし、神の敵を打ち破って、キリストの豊富を享受することです。その時、神は彼の王国を確立することができ、その所で地上の彼の住まいを持たれます。
5日	❶神の召しがキリストにあって(中で)であることを説明して下さい。 ❷神の召しが、遣わされた者によって述べ伝えられる福音を通してであるのは何故ですか？	❶神の召しは、キリストにあってです。神は、範囲としてのキリストにあってわたしたちを召しました。「キリストにあって」はまた、あらゆる恵みの神が、肉体と成ること、人の生活、十字架、復活、昇天のすべての手順を経過して、全体的で完全な贖いを完成したこと、彼の信者たちをご自身との有機的結合へともたらすことを示します。こうして、彼らは、彼らの享受としての三一の神の豊富にあずかります。 ❷福音は、神の御子、わたしたちの主イエス・キリストと、彼のパースン、そして彼が成し遂げ、到達し、獲得したすべて、そして彼がこの時代に成し遂げつつあり、来たるべき時代と永遠において成し遂げるすべてを内容としています。そのようなキリストは、福音、喜ばしいおとずれとして、神の遣わされた者によって宣べ伝えられなければならず、それは神の召された者たちが聞いて彼を受け入れ、こうして永遠において神のご計画を成就するためです。
6日	❶神がわたしたちを召し、キリストの苦難を受けさせるようにされたことを説明して下さい。 ❷神がわたしたちを彼の国の中へと召したことを説明して下さい。	❶主イエスは彼の苦難の生活を、わたしたちがたどることによって複写するための書き写しとしてわたしたちの前に置いて、彼がわたしたちの中で複製されるようにしました。不当に苦しんでいるとき、神の恵みを経験し、わたしたちの内側の神聖な命の動機と、わたしたちの命の中のその表現を享受しています。それは、わたしたちが振る舞いにおいてキリストの複製となり、彼が苦しんだように苦しみ、彼が生きたように生きるためです。 ❷神の王国は、神の神聖な命で構成された有機体であり、神が支配する命の領域となっています。その中で、彼はご自身の神聖な命によって王として支配し、神聖な命の中でご自身を表現します。今日、わたしたち召された者たちは、召会の中で生きなければなりません。それは、わたしたちが神の命において成長し、発展して、完全な円熟に到達するためです。こうして、わたしたちは豊かに、あふれるばかりに供給されて、来たるべき時代に千年王国へと入り、永遠において神の王国の内側で新天新地へと入り、その中で王として支配します。
まとめ	神がわたしたちを召したのは、神の予め定めることと、神の定められた御旨、神の恵み、またキリストにある福音を通してです。神はわたしたちに福音を宣べ伝え、人を救いへともたらし、パロで予表されるサタンの権威から逃れさせます。神はまたわたしたちを用いて、人を導いてこの世の占有と暴虐から脱け出させます。このことは、わたしたちに人への供給と牧養において労苦させます。神はわたしたちをキリストの苦難の中へと召し、特に福音の宣べ伝え、聖徒を牧養し、彼れらを円熟させ、成長させて神へのささげ物とすることにおいて、多くの面で苦難に出会うようにされます。	